

<第3回 論文執筆に向けての話し合い>

参加者：はるな、りか、まい、とむ、さやか、みちこ、shin、てじてじ
(流れ)

1. 共通認識を持つ

- ・論文の仮題目について
- ・ぱずるは **Vamos Papear** のメンバーかどうかについて
- ・エンパワーメントの定義について

2. 前2回の話し合いの経緯を参加者で共有

・第1回(8月17日)

…参加者：よついでい・はるな・さやか・みちこ・てじてじ

内容：1) 活動の始まりから現在までの軌跡を辿り、転機となった出来事を拾い上げ、意味付けをする

⇒転機となったこととして、以下の7項目が挙げられた。

- ①ぱずる設立、②読み聞かせ開始、③スピーチコンテスト、
- ④ワークショップ、⑤サーカスの詩朗読会、⑥日本食パーティ、
- ⑦海の日企画

2) なぜ **Vamos Papear** に関わっているのか、「ぱずる」の存在意義、子どもを中心とするエンパワーメントなどについて話し合う

・第2回(9月18日)

…参加者：はるな・さやか・shin・てじてじ

内容：海の日企画の振り返り4名分を分析し、内容別にラベルを付ける

⇒付けられたラベルは、以下の19項目。

- ①自己反省、②仲間感謝、③企画内容に対する評価、
- ④仲間へのサポート、⑤教育観、⑥ぱずるの活動の展望、
- ⑦運営上の反省、⑧子どもの反応への肯定的感情、
- ⑨授業活動の観察記録、⑩学生の学び、⑪自己状況、
- ⑫子どもへの期待、⑬**Vamos Papear** / ぱずるの活動の抱負、
- ⑭イベントの経緯、⑮相互理解、⑯役割確認、⑰仲間意識の共有、
- ⑱イベントに対する肯定的評価

3. 今日の課題

ぱずる / **Vamos Papear** の活動とは何か整理すること

⇒方法：KJ法を用いる。

- ①「この活動は私にとって何か」を一人ひとりカードに記入し出し合う。
 ※「この活動」とは、ぱずるとしての活動に限定せず、Vamos Papear を中心とした活動と考える。
 また、各企画ごとに分けなくて考えることとする。
- ②似ているもの同士でグループを作り、まとめていく
- ③グループにラベルを付ける

4. KJ 法の実施

- ・カードへの記入後、テーブルに1枚ずつ並べていく。
 その際、似ているものがある場合は、そのカードの近くに並べる。
- ・カードに記入したことばに補足説明が必要なものを質問し合い共通認識を持つ。
- ・わかりやすいものからホワイトボードに貼り替え、少しずつグループ分けをしていく。
- ・ラベル（グループ名）を付けられるものから、付けていく。
- ・話し合いながら、適宜カードの移動やラベルの修正を行う。
- ・グループ毎に見直していく。
- ・概念図完成。（写真） ※詳細は、別ファイル参照のこと



- ・ カテゴリー（番号に意味なし）
 - ①協働、②負担（物理的／精神的）、③Vamos Papear への貢献、④子どもの成長、⑤自己成長、⑥交流（人／世界）、⑦居場所感（太田／大學／両方）、⑧モチベーション、⑨楽しさ・喜び、⑩発信・共有

5. 概念図からの気づき・意見

- ・「自己成長」に関するものが多く、子どもの成長やエンパワーメントに関するものは少ない。
- ・協働作業というニュアンスのものが出来なかったのは驚き。
 - ⇒「共同」と「協働」の違いを確認
 - 共同…複数の人や団体が一緒に仕事をする
 - 協働…複数の人や団体が目標を共有しながら力を合わせて仕事をする
 - 千葉県ウェブサイト「共同から協働へ～普及活動における農協との連携～」より
<http://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/network/h20-fukyuu/kyoudou.html>
 (2012年9月30日アクセス)
- ・協働と発信は関連があるのではないか
- ・カテゴリー分けをし、ラベル付けを自分たちでしたことは、非常に意義深い
- ・大切なのは、「協働」と「楽しさ・喜び」、「負担」、「モチベーション」、「交流」などは、優先順位が低い
- ・「協働」は、前提ではなく、むしろ過程であり、目的や指向性である。
 - あらかじめ目標として掲げているものではなく、結果として協働になっていた感じがする。
 - しかし、そうなるための設定は、まつお先生や Hiromi さんによって十分もたらされていたのではないか。

6. 論文執筆への課題

- ・概念図をもとに、文章化する。
 - ⇒主に各自が挙げたカードについて、ラベルを意識しつつ文章にする。
 - その際、具体性を持って書くこと。
- ※10月6日（土）締め切り。ファイルは、メーリスに投稿すること。